



新堀小だより

元気いっぱい 夢いっぱい みんなが輝く新堀小学校
新堀小3つの約束「心のもったあいさつ 時を守る みんな仲よく」

<http://www.c-niiza.ed.jp/e-shinbori/>

11月号

令和4年11月1日発行



令和4年度全国学力・学習状況調査及び埼玉県学力・学習状況調査結果について

教務主任 花岡 重治

令和4年4月19日に実施された全国学力・学習状況調査と令和4年5月11日に実施された埼玉県学力・学習状況調査の結果についてお知らせいたします。

調査結果を基に、本校児童の学力の課題を明確にし、調査対象学年・教科だけでなく、全児童一人一人の学力・学習状況に応じたきめ細かな指導の充実が図れるよう努めてまいります。

◇ 埼玉県学力・学習状況調査

4年生	国語		算数	
	平均正答率	レベル	平均正答率	レベル
本校	60.2	5-A	61.6	5-B
埼玉県	62.1	6-C	63.0	5-B
新座市	59.4	5-A	61.3	5-B

国語、算数ともに市の平均正答率を上回っていますが、県の平均正答率を下回る結果となりました。国語は段落構成を考えて書くこと、算数は図形と棒グラフの理解に課題がありました。

5年生	国語				算数			
	平均正答率	R04 レベル	R03 レベル	伸び	平均正答率	R04 レベル	R03 レベル	伸び
本校	61.2	7-C	7-C	0	66.7	6-B	5-B	3
埼玉県	56.2	6-A	6-A	0	63.0	6-C	5-A	1
新座市	55.3	6-A	6-B	1	62.1	6-C	5-B	2

国語、算数ともに県・市の平均正答率を上回りました。国語は目的に応じて理由を挙げながら自分の考えを書くこと、算数は、概数の理解や、交換法則や分配法則を活用することに課題がありました。

6年生	国語				算数			
	平均正答率	R04 レベル	R03 レベル	伸び	平均正答率	R04 レベル	R03 レベル	伸び
本校	67.9	8-C	7-C	3	64.6	7-A	6-A	2
埼玉県	63.8	7-A	6-A	3	59.8	6-A	6-B	1
新座市	63.6	7-A	6-A	3	59.5	6-A	6-B	1

国語、算数ともに県・市の平均正答率を上回りました。国語は目的に応じて自分の考えを書くこと、算数は円グラフの見方と百分率の理解、具体的な場面での公倍数の活用に課題がありました。

※「レベル」と「伸び」について

学力調査では様々な難易度の問題が出題されます。そして、各問題に対する正答や誤答の状況が、「学力レベル(上記の表では「レベル」)」として表されます。

なお、学力レベルは1～12まであり、各レベルがさらに3層(高い順にA→B→C)に分かれ、合計36段階で表されます。

さらに、年度間で、正答や誤答の状況の変化の差を数値化し、「学力の伸び」として表されます。

(例) R03→R04の学力の変化が9-C から10-Cだった場合は、レベルが「9-C」→「9-B」→「9-A」→「10-C」と3段階上がっているため、伸びは3となります。

◇ 正答率と質問の相関係数から

各学年において、「学校の宿題をしていますか」「1か月、何冊くらい本を読みますか」「将来どの学校まで進みたいと思いますか」という質問項目と各教科の正答率には、関連が見られることから、今後も、読書の推奨、キャリア教育の充実にも努めてまいります。

◇ 全国学力・学習状況調査

国・県との平均正答率(%)の比較			
	国語	算数	理科
本校	71.0	70.0	66.0
全国	65.6	63.2	63.3
埼玉県	67.0	64.0	65.0

国語、算数、理科の3教科とも全国・県の平均正答率を上回り、無回答率も低かったことから、基礎的・基本的な力がしっかり身につけていると共に、自分の考えをもち、どのような問題にも粘り強く取り組むことができているといえます。

教科別にみると、国語では、話し言葉と書き言葉の使い分けや、叙述を基にし、登場人物の気持ちを読み取ることはできていました。一方、文章を読んで感想を伝え合うことや自分の文書の良いところを見つけること、漢字を正しく活用することに課題が見られました。授業と合わせて国語すいすいの時間を活用して指導してまいります。

算数では、問題の題意を理解してどの計算が適している理由を述べることや、百分率と分数の関係については理解できていました。しかし、図形の定義や性質を理解し、適切な作図方法を考えることに課題が見られました。普段の授業で、既習の学習内容を根拠に自分の考えを書いたり伝えたりする活動を意図的に設けて取り組ませます。

理科は、問題を解決するために必要な観察の視点を基に、解決する道筋を考えることはできていました。しかし、日光の性質を正しく理解できていないことで、誤答となる児童が多くいました。また、実験結果をまとめた際の根拠を答える問題でも課題が見られました。各単元において、「予想を立てる」→「実験をする」→「結果をまとめる」→「考察をする」という学習の流れを確立させて、自分の考えに確かな根拠を持つことができるように指導してまいります。

自分には、よいところがあると思いますか。 ※過去3年間の児童との比較	R4	R3	R元	H30
本校	44.9	55.0	39.1	44.8
全国	39.4	36.2	38.8	41.2
埼玉県	43.7	40.8	44.5	43.6

学習や生活に関する質問で、自己肯定感に関する項目は、全国や県と比較すると高い数値となっていますが、昨年度の6年生と比較すると、約10ポイント低い数値となっています。

今後も子供たちを認め、褒めることを継続してまいります。

